

備中櫓にゆかりがあり、鳥取城主であった池田備中守長幸は、元和3年（1617）に備中松山城に移り6万5千石を領地としました。

これ以前の慶長年間には、小堀家が備中松山の領主として入っており、2代目小堀遠州は備中松山城の修理や城下町の建設を行いました。津山市の衆楽園が作庭されたとされる時期は遠州没後なのですが、一説には、衆楽園は遠州流の庭園であるとされています。

このように、なにかと津山とゆかりのある備中松山藩ですが、その備中松山藩の儒学者として、あるいは藩政改革の指導者として著名な山田方谷も、津山とゆかりのある人物でした。その1つに西洋流砲術の修行があります。山田方谷の年譜から見てみましょう。

方谷は儒学者でしたが、幕末の混乱した情勢の中で軍制改革と西洋式砲術の必要性を早くから感じていました。ところが、現実には諸藩の軍制は古式なものばかりでした。

そこで、弘化4年（1847）4月、方谷は西洋式砲術を学ぶために、弟子の三島毅（中州）を伴って、当時すでに西洋式砲術を採り入れている津山藩を訪れました。方谷が学んだ天野直人は、天保13年（1842）6月には津山藩における荻野流砲術師範役に就いていましたが、天保15年（1844）3月、幕府砲術教授高島秋帆流砲術の修行のため高島門下の下曾根金三郎のもとに遣わされ、また、同じころに星山流砲術の皆伝も受けています。そして、弘化2年（1845）には1年に及ぶ高島流の修行を終えたという人物で

# 津山城百聞録

## ～山田方谷と津山～



▲山田方谷像（高梁市蔵）

した。津山を訪れた方谷は本源寺に滞在して、昼は砲術修行を行い、夜は希望者に対して大学の講義をしています。方谷は、この津山訪問を七言絶句にして

一笏行盡幾重山 一笏行けば尽く幾重の山  
 朝發松山暮勝山 朝に松山を發し暮れに勝山  
 更向東方関山去 更に東方に向かい山を関て去る  
 就中最好是津山 なかみずく最もよきはこれ津山なり

と詠んでいます。

ひと月余りで帰国した方谷は、直ちに藩内で指導を始めました。年譜では、これが備中松山藩の軍制改革の始まりであるとしています。

こうした方谷と津山との交流はその後も続き、安政2年（1855）2月には、砲術にも長けていた津山藩の神伝流師範植原六郎左衛門が、逆に備中松山藩を訪れ、玉島海上での水上砲術演習や神伝流泳法の指導にあたりました。

### 3月中のひとの動き

人口	110,911人(前月比△487)
男	52,931人(同△235)
女	57,980人(同△252)
世帯	43,063世帯(同△41)
転入	730人
転出	1,194人
出生	95人
死亡	118人

(4月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

### つぶやき 編集室

津山駅構内の扇形機関庫（ターンテーブル）は今や貴重な鉄道遺産。その機関庫の見学会が6月11日（日）に行われます。参加費1,000円（駅弁付き）。参加方法などの問い合わせは、エコネットフォーラム 津山 022-765660。(鉄)

市勢要覧完成！稲葉浩志さんからのメッセージでは、多忙の中いただいた文章の一言一言に、ふるさとへの思いが綴られています。稲葉さんの作る歌詞には津山の情景が描かれていてと聞いたことがありますが…うん！納得！（X）

今月号の特集は子どもの日にちなみ、かわいくしてみました。セリフを考えると、だんだん感情移入し「6月4日の河川清掃には行くから、待っててね♡」といつしか心の友となったゴンちゃんと話を…がんばれ自分～。(e)

つやま 広報 5月

平成18年 2006 619号

編集・発行（毎月10日発行）  
 津山市企画部市長公室（市役所3階）  
 〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
 ☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
 Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

